

令和 7 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 7 年 7 月 1 日作成

事務事業名		高齢者等畜産奨励金事業					担当課	農政畜産課					(3)指標の推移		4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度			
							担当G	畜産グループ					活動指標（実施状況）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)		
							会計	款	項	目	備考	(実績)				(実績)	(実績)						
まちづくりプラン （基本目標）	振興計画体系	3	＜産業経済＞大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち					予算科目	1	6	1	6		ア	奨励金の交付頭数	頭	1,470 1,168	1,370 1,133	1,200 788	1,100	1,100	1,100	
（個別目標）	2	1次産業が発展し続けるまち					主な費目	報償費					イ										
（施策）	2	1次産業の振興					対象	70歳以上及び単身女性経営の肉用繁殖牛飼養農家 但し、子牛せり市時の名簿を基本					成果指標（成果・効果）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)		
（基本目標）	1	稼ぐ志布志をつくるとともに、安心して働けるようにする											ア	繁殖牛飼養戸数	頭	389 362	360 328	300 292	280	280	280		
（施策）	2	新規就農総合支援プロジェクト					事業期間	H7 年度～ 年度（ 年間）					イ	繁殖牛飼養頭数	戸	7,284 6,992	7,000 6,677	6,800 6,009	6,100	6,100	6,100		
(1) 総事業費の推移		単位	4年度 (実績・決算)		5年度 (実績・決算)		6年度 (実績・決算)		7年度 (計画・予算)		8年度 (計画・予算)		9年度 (計画・予算)		(4)評価		所管課による評価						
年間トータルコスト	事業費	財源内訳	国県支出金	千円										有効性評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	受給対象となる方々全てに支給できている。70歳に達すれば全ての生産牛農家が対象となる。また、単身女性経営者においても対象となる。							
			その他特定財源	千円																			
			一般財源	千円	3,504	3,399	3,940	5,500	5,500	5,500													
	人件費	事業費計 (A)	千円	3,504	3,399	3,940	5,500	5,500	5,500														
		所要人員 (年間)	人	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300														
		人件費概算 (B)	千円	1,680	1,680	1,680	1,680	1,680	1,680														
(A) + (B)		千円	5,184	5,079	5,620	7,180	7,180	7,180															
(2) 事業概要																							
事業目的	高齢者等へ子牛の市場出荷を奨励することにより、畜産基盤の確保を図る。															効率性評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	令和6年度より1頭当たりの奨励金を5,000円とし、交付上限を10頭とする。					
事業内容	70歳以上及び単身女性経営者（以下高齢者等）が有する豊富な経営能力及び飼養技術を活用しながら高齢者等が畜産経営を継続することで、畜産基盤の確保を図る。																						
開始経緯	高齢者及び女性単独経営者は子牛をせり市場に運搬することが困難なため委託することが多く、経費がかかる。その一部を助成するために旧町において平成6年頃より開始。合併を期に交付基準等統一された。																						
実施状況	(R6年度実績) 154件、788頭に対して支給を行った。5千円/頭。															達成度評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢・環境の変化 ・事業期間	高齢者等に対し交付することで、生産基盤の維持につながっている。但し、大規模農家の高齢化が進んでいる。					
成果	肉用牛は本市の重要な基幹作目であるが、これら高齢者等が飼養を継続されることで、生産基盤の維持につながり、高齢者の生産意欲向上に貢献できた。																						
課題	高齢者等が飼養している肉用繁殖雌牛の頭数は、約25%を占めているため、生産基盤の維持が必要である。また、多頭飼育者の対象が含まれるようになる。子牛価格の下落に伴い、飼養意欲が減退し生産基盤の維持が懸念されるため、費用の負担軽減を図る必要がある。																						
改革改善案																肉用牛繁殖農家が減少する中、高齢者奨励金について、改めて検証する時期にきていると思われる。高齢者奨励金と併せて、規模拡大農家および新規就農者を支援し、生産基盤の拡大を図る施策についても、今後、検討が必要である。							

令和 7 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 7 年 7 月 1 日作成

事務事業名			志布志市畜産振興協議会事業				担当課	農政畜産課					(3)指標の推移			4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度							
							担当G	畜産グループ					活動指標（実施状況）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)							
							予算科目	会計	款	項	目	備考			(実績)	(実績)	(実績)											
まちづくりプラン（基本目標）			振興計画体系	3	<産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち				1	6	1	6		ア	生産者団体数	団体	13 13	13 12	11 12	11	11	11						
(個別目標)			2	1次産業が発展し続けるまち				主な費目																				
(施策)			2	1次産業の振興				対象	生産者団体					成果指標（成果・効果）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)						
(基本目標)			総合戦略	1	稼ぐ志布志をつくるとともに、安心して働けるようにする									ア	粗生産額（畜産部門）	億円	190 194	190 203	200 198	200	200	200						
(施策)			2	新規就農総合支援プロジェクト				事業期間	H21 年度～ 年度（ 年間）					イ														
(1)総事業費の推移			単位	4年度 (実績・決算)		5年度 (実績・決算)		6年度 (実績・決算)		7年度 (計画・予算)		8年度 (計画・予算)		9年度 (計画・予算)		(4)評価		所管課による評価										
年間トータルコスト	事業費 人件費	財源内訳	国県支出金	千円										有効性評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	家畜飼養管理技術は日々新しい技術導入があるため、各部会の研修会等を通じて農家毎の技術向上が図られる。また、部会組織がある生産者はすべて対象となるので公正である。												
			その他特定財源	千円			2,554	2,510																				
			一般財源	千円	1,567	2,540	0	0	2,510	2,510																		
			事業費計（A）	千円	1,567	2,540	2,554	2,510	2,510	2,510																		
			所要人員（年間）	人	0.100	0.200	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100																	
			人件費概算（B）	千円	560	1,120	560	560	560	560																		
			(A) + (B)	千円	2,127	3,660	3,114	3,070	3,070	3,070	3,070	3,070																
(2)事業概要																												
事業目的	畜産関係団体の活動の連携及び振興方策の推進並びに関係機関との連携を促進することにより、農家の所得向上と市の畜産振興を図る。															効率性評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携						志布志市における産業として肉用牛・豚・ブロイラーは重要な位置づけにあり、産業振興及び税収の確保の観点から行政として関わる必要がある。2農協にまたがるため、各部会の統合は現状として難しい。事務局は本市へ一本化されているため、事務の効率化は図られている。					
事業内容	市内畜産生産者団体で構成し、畜産に係る活動の連携と振興方策の推進、関係機関との連携を促進することにより農家の所得の向上と市の畜産振興を目的に活動するため、運営補助金と農協助成金を受け入れ、協議会の活動と生産者団体へ助成金を交付する。																											
開始経緯	合併協議の中で、畜産関係団体を統合した団体を設立し、運営費補助の簡素化と各種事業を農協と市と一緒に取り組むことを目的として設立する方向で協議してきた。																											
実施状況	・生産者団体への助成金交付 ・総会の開催															達成度評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間						会員、団体数も減少しているが、市内の畜産振興を図るうえでは、本協議会に集約し、継続した支援が必要である。					
成果	生産者団体ごとの活動を通じ、畜産農家の所得向上推進と、本市畜産振興に資した。																											
課題	関係団体と継続した連携を図り、振興策の推進と生産者団体の円滑な活動に努める必要がある。															改革改善案	市と農協が相応分の負担を行い、畜産振興に取り組むための協議を行う。 本市畜産振興を図るうえでは、必要な組織である。											

事務事業マネジメントシート

作成日 令和 7 年 7 月 1 日作成

事務事業名		肥育経営支援対策事業		担当課	農政畜産課					(3)指標の推移		4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度				
				担当G	畜産グループ					活動指標（実施状況）	単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)				
				予算科目	会計	款	項	目	備考												
まちづくりプラン （基本目標）		振興計画体系	3	<産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち	予算科目	1	6	1	6		ア 導入頭数	頭	470 413	460 361	365 269	270	270	270			
（個別目標）		2		1次産業が発展し続けるまち	主な費目	負担金、補助及び交付金					イ										
（施策）		2		1次産業の振興	対象	肉用肥育素牛を外部導入する農家 （肥育専門・一貫経営農家）					成果指標（成果・効果）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)			
（基本目標）		総合戦略	1	稼ぐ志布志をつくとともに、安心して働けるようにする							ア 肥育牛飼養頭数	頭	7,792 7,646	7,700 7,433	7,500 8,292	7,500	7,500	7,500 8,300			
（施策）		2		新規就農総合支援プロジェクト	事業期間	H26年度～ 年度（ 年間）					イ 市内子牛平均価格	千円	600 551	600 486	500 479	500	500	500 500			
(1)総事業費の推移		単位	4年度 (実績・決算)	5年度 (実績・決算)	6年度 (実績・決算)	7年度 (計画・予算)	8年度 (計画・予算)	9年度 (計画・予算)	(4)評価		所管課による評価										
年間トータルコスト	事業費	財源内訳	国県支出金	千円						有効性評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	肥育素牛導入支援について継続して実施することにより、肥育農家における導入頭数の確保並びに、市内産子牛のセリ価格を上させる。また、要件を満たす肥育農家の全てが対象であり、公平である。									
		その他特定財源	千円																		
	一般財源	千円	7,150	7,213	9,560	10,800	10,800	10,800													
	事業費計（A）	千円	7,150	7,213	9,560	10,800	10,800	10,800													
	所要人員（年間）	人	0.250	0.250	0.250	0.250	0.250	0.250													
	人件費概算（B）	千円	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400													
(A) + (B)		千円	8,550	8,613	10,960	12,200	12,200	12,200													
(2)事業概要																					
事業目的	配合飼料価格の高止まりにより、肥育農家が厳しい経営環境にあることから、肥育素牛の購入支援を行い、経営基盤の維持を図る。											効率性評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	支援を行うことにより、子牛せり市場での競り合いが伴い、子牛価格上昇への効果も期待できる。なお、本庁一括で業務を遂行しているため、これ以上の人件費の削減余地はない。							
事業内容	経済不況等に起因する消費の減退や各種資材等の高止まりに伴い、牛肉の消費が低迷し、肥育経営は厳しい環境であることから、市内の肥育牛農家が導入する肥育用子牛の導入費用に対し、支援を行うことで、肥育牛経営の維持を図る。																				
開始経緯	経済不況等に起因する、牛肉消費の低迷に伴い、肥育経営並びに繁殖経営ともに厳しい環境であることから子牛価格の引き上げと導入負担軽減を図るため、引き続き支援が必要である。																				
実施状況	(R6年度実績) 黒毛和種 : 229頭 9,160千円 (40,000円/頭) 交雑種 : 40頭 400千円 (10,000円/頭)											達成度評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間	節約志向等に伴う牛肉消費が伸び悩み、また、配合飼料価格をはじめとする各種資材等の高止まりから、計画を下回る導入となった。							
成果	節約志向に伴う消費減退により、枝肉価格が下落し肥育経営を逼迫したが、この事業を活用したことで市内産子牛及び肥育素畜の頭数確保ができた。																				
課題	配合飼料価格の高止まりや各種資材等の高騰など、先行きの不透明感並びに枝肉価格の低迷から、引き続き支援を行う必要がある。																				
				拡充		○		現状維持				改善				効率化				廃止終了	
		円安等による資材、配合飼料価格高騰や、牛肉消費減退等の影響により経営が逼迫している状況のため、計画的な導入が困難となっている。																			

令和 7 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 7 年 7 月 1 日作成

事務事業名		高品質生産対策事業					担当課	農政畜産課					(3)指標の推移		4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度					
							担当G	畜産グループ					活動指標（実施状況）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)				
							予算科目	会計	款	項	目	備考			(実績)	(実績)	(実績)								
まちづくりプラン （基本目標）		振興計画体系	3	＜産業経済＞大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち					予	1	6	1	6		ア	導入頭数	頭	493 332	481 254	391 302	350 /	350 /	350 /		
（個別目標）		2	1次産業が発展し続けるまち					主	負担金、補助及び交付金					イ											
（施策）		2	1次産業の振興					対	肉用牛繁殖飼養農家 搾乳用乳用牛飼養農家 養豚繁殖豚飼養農家					成果指標（成果・効果）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)			
（基本目標）		1	稼ぐ志布志をつくとともに、安心して働けるようにする								ア	粗生産額（畜産部門）	億円	190 194	190 203	200 198	200 /	200 /	200 /						
（施策）		2	新規就農総合支援プロジェクト					事	H26 年度～ 年度（ 年間）					イ											
(1) 総事業費の推移		単位	4年度 (実績・決算)	5年度 (実績・決算)	6年度 (実績・決算)	7年度 (計画・予算)	8年度 (計画・予算)	9年度 (計画・予算)	(4)評価		所管課による評価														
年間 トータル コスト	事業費 人件費	財源内訳	国県支出金	千円		700	700	700	700	有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	支援を行うことにより、導入の意欲向上が図られる。 また、所得向上へつながる対策である。 廃止することで、導入意欲減退につながる恐れがある。													
		その他特定財源	千円																						
		一般財源	千円	11,177	9,687	13,280	16,900	16,900																	
		事業費計（A）	千円	11,177	10,387	13,980	17,600	17,600																	
		所要人員（年間）	人	0.300	0.400	0.400	0.400	0.400																	
		人件費概算（B）	千円	1,680	2,240	2,240	2,240	2,240																	
		(A)＋(B)	千円	12,857	12,627	16,220	19,840	19,840																	
(2)事業概要													効率性 評価	事務については、本庁一括で行っている。 事業費については、対象農家減少により変動する。											
事業目的	各畜種において、市場性や生産性の高い種畜の保留導入を進め、農家経営の維持向上を図る。																								
事業内容	(肉用牛) 毎月開催される曾於地区子牛展示品評会において、最優秀賞または優秀賞牛で、曾於中央家畜市場から導入、保留した雌子牛とし、導入後3ヶ月以上飼育した雌子牛が対象。また、前記以外の牛で、当該年度の曾於地区畜産共進会（郡共）出品牛も対象とする。 (乳用牛) 外部導入（市場から血統が明らかな種畜を購入すること）・自家保留（農家で育成した種畜を搾乳用に仕向けること）される雌子牛とし、導入・保留後3ヶ月以上飼育した雌牛が対象。 (豚) 繁殖用専門に飼育された農場より、外部導入（市場や種豚場）される種畜（豚♀・♂）とし、導入後3ヶ月以上飼育した種畜が対象。 なお、肉用牛においては県の全共出品対策事業も活用する。																								
開始経緯	合併以前より、畜産生産基盤の維持、強化や改良を図ることを目的として、導入等に対して支援を行った。 なお、濃厚飼料費の高騰、円安等により経営費の逼迫が懸念されるため、引き続き支援が必要である。											達成度 評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間		円安等による配合飼料価格や各種資材の高止まりにより経営費の逼迫が懸念されている。 また、子牛価格等の低迷により、生産基盤の維持を図っていく必要がある。										
実施状況	(R6年度実績) (1) 肉用牛：子牛展示品評会出品牛＝最優秀市内43頭、市外4頭、優秀47頭 ：曾於地区畜産共進会出品牛＝最優秀4頭、優秀16頭 (2) 乳用牛：自家保留・導入61頭 (3) 豚：雄14頭、雌113頭																								
成果	優良種畜の確保が図られ、改良と生産基盤の維持に寄与した。											改革 改善案	拡充		○	現状維持		改善		効率化		廃止終了			
課題	安定した生産基盤の維持のため、継続した支援が必要である。 また、資材や飼料価格等が高止まりし、経営を逼迫している状況であるため、支援の拡充を図ることにより、肉用牛、乳用牛、豚の経営基盤の維持を図る必要がある。												農家所得に直接結びつく内容である。 令和5年度より、肉用牛においては、県単事業（全共出品対策事業）の財源を充当し、導入を図る。												

令和 7 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 7 年 7 月 1 日作成

事務事業名		畜産施設整備支援事業					担当課		農政畜産課		(3)指標の推移		4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度					
							担当G		畜産グループ		活動指標（実施状況）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)				
							会計	款	項	目				備考	(実績)	(実績)	(実績)						
まちづくりプラン（基本目標）		振興計画体系	3	＜産業経済＞大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち					予算科目	1	6	1	6			486	450	450	380	380	380		
(個別目標)		2	1次産業が発展し続けるまち					主な費目	負担金、補助及び交付金														
(施策)		2	1次産業の振興					対象	畜産農家					成果指標（成果・効果）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	
(基本目標)		総合戦略	1	稼ぐ志布志をつくるとともに、安心して働けるようにする											(実績)	(実績)	(実績)						
(施策)		2	新規就農総合支援プロジェクト					事業期間	H26 年度～ 年度（ 年間）														
(1)総事業費の推移		単位	4年度 (実績・決算)		5年度 (実績・決算)		6年度 (実績・決算)		7年度 (計画・予算)		8年度 (計画・予算)		9年度 (計画・予算)		(4)評価		所管課による評価						
年間 トータル コスト	事業費 人件費	財源内訳	国県支出金	千円									有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	国、県の事業対象となる場合はその事業を優先して取り組んでいるが、事業採択要件に満たない農家について対応している。 事業実施希望者については、受益者負担がある。 また、事業実施に係る要件が整えば実施できることから、公平・公正である。								
		その他特定財源	千円																				
		一般財源	千円	1,800	0	800	1,300	1,300	1,300														
		事業費計（A）	千円	1,800	0	800	1,300	1,300	1,300														
		所要人員（年間）	人	0.250	0.250	0.250	0.250	0.250	0.250														
		人件費概算（B）	千円	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400														
(A) + (B)		千円	3,200	1,400	2,200	2,700	2,700	2,700	2,700	2,700													
(2)事業概要																							
事業目的	畜産経営の環境保全を図るとともに、規模拡大や家畜糞尿処理対策に伴う施設整備により、畜産経営の基盤強化を図る。																						
事業内容	規模拡大、家畜糞尿処理に伴う畜産施設整備に対する補助。																						
開始経緯	畜産農家の高齢化等により畜産基盤が弱体化し、基盤を維持拡大するため増頭等と呼び掛けたが、施設整備の費用が多大であることから、国の補助事業では対象とならない施設に対して補助事業を開始した。																						
実施状況	(R6年度実績) 牛舎1棟																						
成果	規模拡大に伴う施設整備が図られた。																						
課題	規模拡大並びに家畜糞尿処理に対応するため、今後も実施し、畜産基盤の維持・拡大を図る必要がある。 節約志向による牛肉消費低迷に伴う、枝肉価格、子牛価格等の下落により、規模拡大への投資が厳しい状況にある。																						
														改革 改善 案	拡充			○	現状維持		改善	効率化	廃止終了
															資材等の高止まりにより、建設費用の上昇が懸念され、併せて、畜産物価格の低迷等もあり、増頭意欲の減退も懸念される。								

令和 7 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 7 年 7 月 1 日作成

事務事業名		肉用繁殖雌牛導入事業貸付金					担当課		農政畜産課		(3)指標の推移		4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度				
							担当G		畜産グループ		活動指標（実施状況）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)			
							会計	款	項	目	備考	(実績)	(実績)	(実績)								
まちづくりプラン（基本目標）	振興計画体系	3	＜産業経済＞大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち					予算科目	1	6	1	6			80	65	55	42	42	42		
（個別目標）	2	1次産業が発展し続けるまち					主な費目	貸付金														
（施策）	2	1次産業の振興					対象	肉用牛繁殖農家					成果指標（成果・効果）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	
（基本目標）	総合戦略	1	稼ぐ志布志をつくるとともに、安心して働けるようにする										ア		子牛平均価格	千円	600	600	500	500	500	500
（施策）	2	新規就農総合支援プロジェクト					事業期間	年度～ 年度（ 年間）					イ									
(1) 総事業費の推移		単位	4年度 (実績・決算)	5年度 (実績・決算)	6年度 (実績・決算)	7年度 (計画・予算)	8年度 (計画・予算)	9年度 (計画・予算)	(4) 評価		所管課による評価											
年間トータルコスト	事業費 人件費	財源内訳	国県支出金	千円						有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	導入費用を金融機関から借り入れる場合に保証人の確保が困難であり、また、借り入れ利子の負担が発生する。貸付を希望する農家に対し貸付がなされている。貸付限度額を超える導入については自己資金で対応している。										
		その他特定財源	千円																			
		一般財源	千円	15,299	8,273	12,846	14,850	14,850														
		事業費計 (A)	千円	15,299	8,273	12,846	14,850	14,850														
		所要人員 (年間)	人	0.150	0.150	0.150	0.150	0.150														
		人件費概算 (B)	千円	840	840	840	840	840														
(A) + (B)		千円	16,139	9,113	13,686	15,690	15,690															
(2) 事業概要																						
事業目的	肉用牛の改良及び増頭を円滑に実施するため、無利子で資金を貸し付けることにより、経費の軽減を図る。												効率性 評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	導入を希望する農家が多く、資金が不足する場合は、貸付金の拡大を検討する必要がある。事務については、農協への資金貸付、償還事務のみである。							
事業内容	繁殖雌牛導入資金を農協に貸し付ける。 子 牛＝貸付上限70万円で5年間無利子（貸付上限1/2が市貸付金） 妊娠牛＝貸付上限80万円で3年間無利子（貸付上限1/2が市貸付金）																					
開始経緯	昭和63年より肉用牛繁殖雌牛の更新に係る繁殖牛の育成牛価格が高騰し、適正な更新が困難になり導入資金の貸付について要望があり、同様の制度を設けた。																					
実施状況	(R6年度実績) 貸付内容 45頭（子牛43頭、妊娠牛2頭） 貸付先 そお鹿児島農業協同組合及びあおぞら農業協同組合												達成度 評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢・環境の変化 ・事業期間	配合飼料の高止まりに伴い先行き不安の中ではあるが、増頭や適正な更新を図り品質の維持・向上に努める必要があるため、農協を中心とした導入推進が必要である。							
成果	肉用繁殖牛の改良と適正な更新が図られ、経営安定に資することができた。																					
課題	繁殖基盤の改良、更新、増頭に向けて事業継続が必要である。 子牛価格低迷に伴い、貸付が困難となっている。												改革 改善案	需要が増加した場合は貸付金額の見直し（増額）が必要である。								

令和 7 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 7 年 7 月 1 日作成

事務事業名		乳用牛導入事業貸付金					担当課		農政畜産課		(3)指標の推移		4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度								
							担当G		畜産グループ					活動指標（実施状況）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)				
							会計	款	項	目	備考	(実績)	(実績)				(実績)									
まちづくりプラン（基本目標）		振興計画体系	3	＜産業経済＞大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち					予算科目	1	6	1	6				ア	貸付導入頭数	頭	10 0	5 0	5 0	3	3	3	
(個別目標)		2	1次産業が発展し続けるまち					主な費目	貸付金																	
(施策)		2	1次産業の振興					対象	酪農家						成果指標（成果・効果）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)			
(基本目標)		総合戦略	1	稼ぐ志布志をつくるとともに、安心して働けるようにする																						
(施策)		2	新規就農総合支援プロジェクト					事業期間	H5 年度～ 年度（ 年間）																	
(1)総事業費の推移		単位	4年度 (実績・決算)		5年度 (実績・決算)		6年度 (実績・決算)		7年度 (計画・予算)		8年度 (計画・予算)		9年度 (計画・予算)		(4)評価		所管課による評価									
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	千円													有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	本事業を廃止・休止した場合、能力の高い乳用牛の導入が困難となり経営向上に影響がある。貸付限度額を超える導入があった場合は農家が負担している。貸付を希望する農家に対し貸付がなされている。								
		国県支出金	千円	0		0		0		0		0														
		その他特定財源	千円	0		0		0		2,100		2,100		2,100												
	一般財源	千円	0		0		0		2,100		2,100		2,100													
	事業費計（A）	千円	0		0		0		2,100		2,100		2,100													
	所要人員（年間）	人	0.050		0.050		0.050		0.050		0.050		0.050													
	人件費概算（B）	千円	280		280		280		280		280		280													
(A) + (B)		千円	280		280		280		2,380		2,380		2,380													
(2)事業概要																										
事業目的	専門農協を通じて酪農家へ無利子で貸付を行い、乳用牛の淘汰、更新により酪農経営の維持安定を図る。																									
事業内容	搾乳用育成雌牛（初任牛）導入資金を県酪農協に貸し付ける。 （貸付上限70万円で3年間無利子）																									
開始経緯	乳用牛の更新に係る育成牛の価格が高騰し、適正な更新が困難になり導入資金の貸付について要望があり、本制度を設けた。																									
実施状況	導入を計画していたが、配合飼料価格等の各種資材の高騰や、牛乳消費減退等により経営が逼迫し、導入できなかった。																									
成果	牛乳生産については、需給バランスの早期改善が必要となっている。																									
課題	適正な更新と改良を行う必要があることから、事業を継続する必要がある。																									
		拡充		○		現状維持		改善		効率化		廃止終了														
		農家段階において、牛群改良を行うことで、乳量を増産できるため、計画的な牛群改良が必要である。また、円安や配合飼料価格高騰等に伴う費用の増加により経営の逼迫が懸念される。																								

令和 7 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 7 年 7 月 1 日作成

事務事業名		志布志市全国和牛能力共進会推進協議会負担金					担当課		農政畜産課		(3)指標の推移		4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度									
							担当G		畜産グループ					活動指標（実施状況）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)					
							会計	款	項	目	備考	(実績)	(実績)				(実績)										
まちづくりプラン（基本目標）		振興計画体系	3	＜産業経済＞大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち					予算科目	1	6	1	6			9	9	9	9	9							
(個別目標)		振興計画体系	2	1次産業が発展し続けるまち					主な費目	負担金、補助及び交付金																	
(施策)		振興計画体系	2	1次産業の振興					対象	志布志市全国和牛能力共進会推進協議会					成果指標（成果・効果）		(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)					
(基本目標)		総合戦略	1	稼ぐ志布志をつくるとともに、安心して働けるようにする											事業期間	R5	年度～年度（ 年間）	ア	子牛平均価格	千円		600	500	500	500	500	500
(施策)		総合戦略	2	新規就農総合支援プロジェクト														イ									
(1)総事業費の推移			単位	4年度 (実績・決算)		5年度 (実績・決算)		6年度 (実績・決算)		7年度 (計画・予算)		8年度 (計画・予算)		9年度 (計画・予算)		(4)評価		所管課による評価									
年間トータルコスト	事業費	財源内訳	国県支出金	千円											有効性評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	全共鹿児島大会の結果を受け、早急な取り組みが必要である。 次回大会（北海道大会）への出品を目指す。										
		財源内訳	その他特定財源	千円																							
		財源内訳	一般財源	千円			500	400	400	1,500	4,500																
	事業費計（A）	千円		0	500	400	400	1,500	4,500																		
	所要人員（年間）	人			0.100	0.100	0.200	0.200	0.200																		
	人件費概算（B）	千円		0	560	560	1,120	1,120	1,120																		
	（A）＋（B）	千円		0	1,060	960	1,520	2,620	5,620																		
(2)事業概要																											
事業目的	第13回全国和牛能力共進会北海道大会への出品に向けて、生産者及び関係者の機運を高めるとともに、若手農家を中心とした育成技術研修会等を開催し育成技術の向上を図る。																										
事業内容	志布志市全国和牛能力共進会推進協議会の運営に係る負担金																										
必要性	全国和牛能力共進会出品に向けての機運を高める。 新たに若手部会を設立し、育成技術並びに経営の発展を図る。																										
実施状況	若手農家を中心とした新たな組織化を行った。																										
成果	全国和牛能力共進会に出品することで、志布志市の名声を高めることができる。また、志布志市内の肉用牛農家への意欲向上につながる。																										
課題	若手農家を中心とした新たな組織（志布志市肉用牛改良青年部会）や技術員の研修会等の実施。																										
農協等の関係機関との連携を図り、育成技術の向上を図り、各種共進会への上位入賞を目指す。また、若手農家を中心とした生産者団体を新たに組織化したことで、市内肉用牛農家の連携が一層図られることが期待できる。																											

事務事業マネジメントシート

作成日 令和 7 年 7 月 1 日作成

事務事業名		畜産共進会等謝礼事業		担当課		農政畜産課		(3)指標の推移		4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度				
				担当G		畜産グループ				活動指標（実施状況）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	
				会計	款	項	目	備考	(実績)				(実績)	(実績)					
まちづくりプラン（基本目標）		振興計画体系	3	＜産業経済＞大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち		予算科目	1	6	1	6									
(個別目標)			2	1次産業が発展し続けるまち		主な費目	報償費				ア	市品評会開催回数	回	0 0	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2
(施策)			2	1次産業の振興		対象	肉用牛（繁殖）農家 乳用牛（搾乳）農家				成果指標（成果・効果）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)
(基本目標)		総合戦略	1	稼ぐ志布志をつくるとともに、安心して働けるようにする										(実績)	(実績)	(実績)			
(施策)			2	新規就農総合支援プロジェクト		事業期間	H18 年度～ 年度（ 年間）				イ								
(1)総事業費の推移			単位	4年度 (実績・決算)	5年度 (実績・決算)	6年度 (実績・決算)	7年度 (計画・予算)	8年度 (計画・予算)	9年度 (計画・予算)	(4)評価		所管課による評価							
年間トータルコスト	事業費	財源内訳	国県支出金	千円						有効性評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	共進会に係る指導を通じて、出品者の技能や畜産意欲の維持が図られた。 肉用牛・乳用牛の全てが対象で、出品基準を達成すれば誰もが出場可能である。 種畜改良の推進及び生産意欲向上の場の機会がなくなるため、育成技術向上及び生産意欲が減退する。							
		その他特定財源	千円																
	一般財源	千円	117	3,143	4,200	8,561	8,561	15,000											
	事業費計（A）	千円	117	3,143	4,200	8,561	8,561	15,000											
	所要人員（年間）	人	0.050	0.400	0.500	0.500	0.400	0.400											
	人件費概算（B）	千円	280	2,240	2,800	2,800	2,240	2,240											
(A) + (B)			千円	397	5,383	7,000	11,361	10,801	17,240										
(2)事業概要																			
事業目的	市、曾於地区、県等段階での共進会を通じて飼養者の技術向上や、家畜の資質向上、併せて意欲の向上を図り、経営を継続することで畜産基盤の確保を図る。									効率性評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	育成検討会を実施することで、種畜の資質向上が図られる。 高齢化や専門化に伴い出品頭数が減少しているため、関係機関と連携し出品に向けての推進を行う。							
事業内容	秋季地区畜産品評会の開催や、出品経費等の助成 共進会前の品質向上対策（手入れ指導等） 九州連合ホルスタイン共進会への出品経費等の助成																		
開始経緯	肉用牛及び乳用牛等の改良を目的に昭和27年より開始。									達成度評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間	地区品評会への出品頭数増（確保）並びに、県への出品を行うことにより、育成技術向上を図る。また、出品増へ向けて、関係機関と連携を図り、出品に向けての推進を行う。乳用牛においては、5年に1度の全共が北海道において開催されるため、出品に向けて取り組むことで、生産者の意欲向上を図る。							
実施状況	(R6実績) (1) 肉用牛共進会 (春季) 市：4/11～4/15＝54頭 曾於地区：5/10＝28頭 (秋季) 市：9/3～9/5＝84頭 曾於地区：9/12＝30頭 県＝9/28＝2頭 (2) ホルスタイン共進会 曾於地区：開催なし 県：10/2＝4頭 (3) 市枝肉共励会 4回																		
成果	市、郡、県の各共進会が開催され、肉用牛、乳用牛ともに県共進会への出品を行うことができた。 肉用牛においては、若雌1区と成雌区での出品となり両区共に最優秀賞に入賞し、成雌区では最優秀賞2席を獲得し、意欲の向上が図られた。									改革改善案	拡充	○	現状維持	改善	効率化	廃止終了			
課題	育成技術の向上を図るとともに、生産者相互の交流による生産意欲向上のために必要であるが、畜産農家の高齢化や複合経営などにより、出品頭数確保に苦慮している。 各種資材や飼料高騰に伴う経費が増加しており、また、価格下落等に伴う経営逼迫の状況にあることから、出品に伴う費用負担軽減を図る必要がある。										現在、志布志市では旧町単位で品評会を実施して、曾於地区共進会等へ出品している。これを志布志市で一本化すれば、効率よく事業実施できると思われるが、それぞれの地域においてそのような機運はない。さらに、肉用牛においては、農協（曾於地区）からの出品割当が旧町支所単位となっている。								

令和 7 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 7 年 7 月 1 日作成

事務事業名			家畜伝染病侵入防止対策事業					担当課		農政畜産課					(3)指標の推移		4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度		
								担当G		畜産グループ					活動指標（実施状況）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	
								会計	款	項	目	備考	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)						
まちづくりプラン （基本目標）			振興計画体系	3	＜産業経済＞大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち					予算科目	6	1	6	1		ア	消毒資材	件	24 6	9 3	419 387	380	380	380
（個別目標）			2	1次産業が発展し続けるまち					主な費目	負担金、補助及び交付金					イ	消毒機器、侵入防止対策	件	14 2	9 1	12 21	20	20	20	
（施策）			2	1次産業の振興					対象	畜産農家					成果指標（成果・効果）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	
（基本目標）			1	稼ぐ志布志をつくるとともに、安心して働けるようにする											ア	粗生産額（畜産部門）	億円	190 194	190 203	200 198	200	200	200	
（施策）			2	新規就農総合支援プロジェクト					事業期間	H29 年度～ 年度（ 年間）					イ									
(1) 総事業費の推移			単位	4年度 (実績・決算)	5年度 (実績・決算)	6年度 (実績・決算)	7年度 (計画・予算)	8年度 (計画・予算)	9年度 (計画・予算)	(4) 評価		所管課による評価												
年間 トータル コスト	事業費 内訳 人件費	財源内訳	国県支出金	千円						有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	口蹄疫、鳥インフルエンザ並びに豚流行性下痢、豚熱はウィルスの蔓延に伴い被害が拡大する。また、ランブイエスキン病は吸血昆虫により感染する。農場内外の消毒及び吸血昆虫の媒介防止対策を行うことにより、疾病の侵入や蔓延防止を図る。市内に農場のある畜産農家全戸を対象としている。事業費に対して補助率の設定や、補助交付に上限を設けているので公平である。また、系統においては、農協の支援も願います。												
		その他特定財源	千円																					
		一般財源	千円	450	325	4,907	6,173	6,173	6,173															
		事業費計 (A)	千円	450	325	4,907	6,173	6,173	6,173															
		所要人員 (年間)	人	0.100	0.100	0.300	0.300	0.300	0.300															
		人件費概算 (B)	千円	560	560	1,680	1,680	1,680	1,680															
(A) + (B)			千円	1,010	885	6,587	7,853	7,853	7,853															
(2) 事業概要																								
事業目的	海外悪性伝染病（口蹄疫、鳥インフルエンザ）並びに豚熱の侵入・発生を防止するため、消毒薬を購入し配布することで、侵入防止への意識向上、啓発を図る。なお、消毒施設（機器）、防鳥ネット（柵）、鳥獣害防止等の整備に対し一部助成を行うことで、畜産農家の防疫強化と所得向上を図る。												効率性 評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携		市内に農場のある畜産農家を対象としているため、防疫の効果が高い。								
事業内容	口蹄疫、鳥インフルエンザ並びに豚熱等の侵入防止並びに蔓延防止を図るため、消毒薬の配布並びに消毒施設（機器）、防鳥ネット、鳥獣害防止の整備に対する助成を行う。																							
開始経緯	国内において、平成22年度の口蹄疫、鳥インフルエンザの国内発生、平成25年度に豚流行性下痢（PED）の発生、平成30年度には国内で豚熱が発生し、また、令和5年8月には九州地区でも発生が確認された。アジア諸国においては、口蹄疫・鳥インフルエンザ・アフリカ豚熱が継続して発生し、本年には国内初となるランブイエスキン病の発生が確認されているため、場内の消毒を徹底しウィルスの侵入及び蔓延防止を図るため、消毒薬を配布及び機器を整備することで自衛防疫に対する対策強化、農家の自衛防疫に対し助成を行う。												達成度 評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間		事業実施により、安定した畜産物の生産・供給により、経営の安定につながる。また、自衛防疫により定期的な消毒作業を実施しており、本事業を推進することで、防疫意識の向上も期待できる。								
実施状況	(R6年度実績) 消毒資材 387件 4,607袋 侵入防止 防虫ネット設置21件																							
成果	自衛防疫を行うことにより、伝染病の侵入を防止し、経営の安定が図られた。また、防鳥（虫）ネットを整備することで、吸血昆虫等の発生を抑制し、衛生対策の強化が図られた												改革 改善 案	拡充		○	現状維持	改善	効率化	廃止終了				
課題	近隣諸国や国内において、家畜伝染病の発生が継続しているため、引き続き支援を行う。 市内農場において、全農場を対象に消毒薬を配布し、一斉に消毒薬を散布することで、侵入防止を図る必要がある。													消毒に関する機器等やネットの整備について支援することで、防疫体制の構築が期待できる。また、市内の畜産農家（農場）を対象に消毒資材の配布を行い、防疫意識向上を図る。										

令和 7 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 7 年 7 月 1 日作成

事務事業名		家畜損耗防止対策事業		担当課	農政畜産課					(3)指標の推移		4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度				
				担当G	畜産グループ					活動指標（実施状況）	単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)				
まちづくりプラン (基本目標)		振興計画体系	3	＜産業経済＞大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち	予算科目	会計	款	項	目	備考	ア 実施件数	戸				3	3				
(個別目標)			2	1次産業が発展し続けるまち	主な費目	負担金、補助及び交付金					イ										
(施策)			2	1次産業の振興	対象	乳用牛飼養農家					成果指標（成果・効果）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)			
(基本目標)		総合戦略	1	稼ぐ志布志をつくるとともに、安心して働けるようにする							事業期間	H18	年度～	年度（	年間）	ア 粗生産額（畜産部門）	億円				200
(施策)			2	新規就農総合支援プロジェクト							イ										
(1)総事業費の推移				単位	4年度 (実績・決算)	5年度 (実績・決算)	6年度 (実績・決算)	7年度 (計画・予算)	8年度 (計画・予算)	9年度 (計画・予算)	(4)評価		所管課による評価								
年間 トータル コスト	事業費 内訳 人件費	財源内訳	国県支出金	千円							有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	乳用牛（酪農家）については希望すれば全て対象としている。								
			その他特定財源	千円	1,374	1,530	0														
			一般財源	千円	1,380	1,536	0	2,400	2,400												
			事業費計（A）	千円	2,754	3,066	0	2,400	2,400												
			所要人員（年間）	人	0.250	0.250	0.000	0.250	0.250												
			人件費概算（B）	千円	1,400	1,400	0	1,400	1,400												
(A) + (B)		千円	4,154	4,466	0	3,800	3,800														
(2)事業概要																					
事業目的	乳用牛における暑熱対策を行うことにより、経済的損失の軽減により、酪農家の所得向上を図る。																				
事業内容	酪農家における暑熱対策に伴う資機材整備に対する助成を行う。																				
開始経緯	昨今の温暖化の影響により、夏季における搾乳量の低下が問題視されている。																				
実施状況	令和7年度において今対策を実施する。																				
成果	暑熱対策を行うことで、搾乳量の安定化及び増加が見込まれる。																				
課題	整備に伴い、生産者の負担が発生することから、事業の周知及び理解を深める必要がある。																				
												改革改善案	資材高騰等により、酪農経営を圧迫している状況にあることから、通年で安定した乳量の確保に努める。								
													拡充	○	現状維持		改善		効率化		廃止終了

令和 7 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 7 年 7 月 1 日作成

事務事業名		鳥害防止対策事業		担当課	農政畜産課					(3)指標の推移		4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度			
				担当G	畜産グループ					活動指標（実施状況）	単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)			
まちづくりプラン （基本目標）		振興計画体系	3	＜産業経済＞大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち	予算科目	会計	款	項	目	備考	ア	実施件数	件				20	20	20	
（個別目標）			2	1次産業が発展し続けるまち	主な費目	負担金、補助及び交付金					イ									
（施策）			2	1次産業の振興	対象	畜産農家					成果指標（成果・効果）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	
（基本目標）		総合戦略	1	稼ぐ志布志をつくとともに、安心して働けるようにする							事業期間	R7	年度～	年度（	年間）	ア	粗生産額（畜産部門）	億円		
（施策）			2	新規就農総合支援プロジェクト							イ									
(1)総事業費の推移		単位		4年度 (実績・決算)	5年度 (実績・決算)	6年度 (実績・決算)	7年度 (計画・予算)	8年度 (計画・予算)	9年度 (計画・予算)	(4)評価		所管課による評価								
年間 トータル コスト	事業費 内訳 人件費	財源内訳	国県支出金	千円						有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	国、県、農協では類似事業は実施しておらず、配合飼料など生産資材が高止まりし、畜産農家の経営が厳しい状況の中、カラス等による家畜への被害を軽減するため、創設した。								
			その他特定財源	千円																
			一般財源	千円				2,000	2,000											2,000
			事業費計（A）	千円	0	0	0	2,000	2,000											2,000
			所要人員（年間）	人				0.250	0.250											0.250
			人件費概算（B）	千円	0	0	0	1,400	1,400											1,400
	（A）＋（B）	千円	0	0	0	3,400	3,400	3,400												
(2)事業概要										効率性 評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	肉用牛だけでなく、市内に畜舎のある全畜産農家を対象としているため、鳥害防止の効果が高い。								
事業目的	鳥(カラス等)による家畜への被害を軽減するため、侵入防止又は抑制する機器等の整備に対し助成を行うことにより、家畜の商品性向上を図る。																			
事業内容	鳥(カラス等)の畜舎への侵入防止対策の機器等の整備に対する助成を行う。																			
開始経緯	畜舎に侵入したカラスが、肉用牛の子牛や肥育牛を口ばしで突き、死亡したり、商品にならなくなり、廃棄する事例が複数の農家で確認された。																			
実施状況	令和7年度より今対策を実施する。																			
成果	令和6年度にモデル機器で実証したところ、これまでカラス被害があった農家で被害の防止を確認することができている。																			
課題	カラスは学習能力が高いため、機器の動作に慣れて、機器の効果が薄れることが懸念される。そのため、機器の設置場所や操作について、効果を検証しながら、工夫して使用することが必要である。									改革改善案	事業開始初年度のため、事業の効果を検証していく必要がある。									